

水田たより 2月号

令和6年2月1日

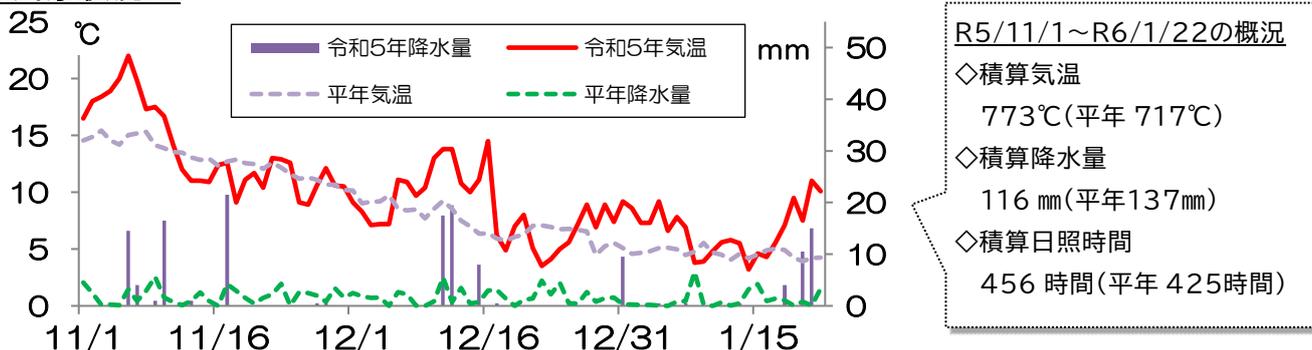
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

麦 気象状況と生育状況

気温については、11月上旬から1月下旬にかけて全体的に高く推移しました。その影響で11月上旬播種のほ場ではかなり生育が進んでいます。一方、11月中旬以降播種のほ場では生育が平年並みとなっています。

<気象状況>



地域	品種	播種日	3カ年平均との比較			
			茎数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	11/14	同程度	同程度	同程度	同程度
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/2	同程度	大	早	同程度
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	やや多い	大	早	やや薄

麦 1回目穂肥について

11月上旬播種の麦類では、草丈、葉齢ともに生育がかなり早くなっており、下の表を参考に追肥を時期を逃さず行ってください。また、6葉期以降は幼穂を傷つけ減収につながるため、麦踏みは行わないでください。

■分施の場合

種類	内容	時期	窒素目安量	施用量(N=14%の場合)
小麦・大麦	1回目の追肥 (穂数確保)	2月上中旬 (幼穂形成期)	2~2.5kg/10a	15~20kg/10a
小麦・大麦	2回目の追肥 (登熟歩合向上・ 粒の充実向上)	3月中旬 (止葉抽出始期)	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a

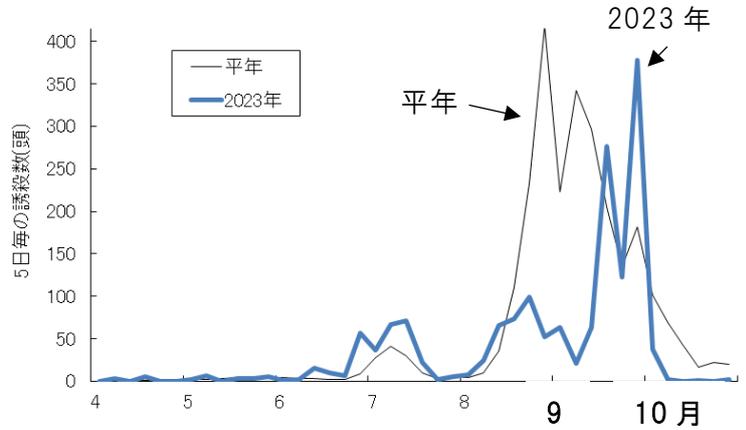
※大麦は、施用量が多かったり、時期が遅かったりすると、硝子粒の増加につながります。生育状況を確認しながら、適期適量の施肥を心がけましょう。

大豆

令和5年産のふりかえり

令和5年産の大豆は、7月中下旬に降水量が少なかった影響で、苗立ちの悪いほ場が見受けられました。生育初期の干ばつは苗立ちに大きく影響しますので、早めに播種しましょう。また、今年はハスモンヨトウの発生量が多く、三重県内で被害も多くなりました（三重県病虫害防除所 HP より）。桑名管内においても一部ほ場でハスモンヨトウがみられましたが、適期防除により被害は最小限に抑えられました。令和6年産でも適期の薬剤散布を行いましょう。

カメムシは9月中下旬に急増しました（右図）。また、高温により生育が進み、薬剤が下部までかからなかったことで、うまく防除できず、カメムシによって吸汁害を受け、青立ちが助長されたほ場も見受けられました。なお、青立ちはカメムシによる吸汁害以外でも、湿害による生育不良や干ばつによって莢と茎葉のバランスが悪くなり、莢への養分の転流が上手くいかなくなることによって生じます。青立ちすると、汚損粒が発生し、品質の低下につながることから、病虫害の適期の複数回防除や排水対策を徹底して、青立ちを防ぎましょう。



畑地におけるミナミアオカメムシの誘殺数（嬉野）

青線：2023年 黒線：平年 三重県病虫害防除所より一部改変

水稻

作付けに向けて！ほ場の準備

次作の作付けをスムーズに進めるために冬期のほ場準備が大切です。

■ 耕起

耕起によって作土深を確保すると、根域を拡大でき養水分の供給量が増加します。

- ・ 作土深は15cm程度が目安 過度の深耕は機械の作業効率低下や還元助長の原因となります。

■ 均平

ほ場の凸凹は排水性の低下や、部分的な田面の露出による生育ムラや雑草の発生を引き起こします。前作で凸凹が気になったほ場では均平作業を実施しましょう。

- ・ 残渣を土中にすき込んでから 均平作業の前にプラウやロータリーで耕起し、ほ場表面の残渣をしっかりとすき込みます。特に大豆後ほ場では田植えに支障がでないよう要注意です。

水稻

三重県生まれのブランド米「結びの神」の生産者募集！

■ 「結びの神」とは

三重県育成品種「三重23号」のうち「みえの安心食材認証」を取得し、品質基準「農産物検査1等格付、玄米タンパク質含量6.8%以下(当面)」を満たしたものを「結びの神」として販売することができます。品質を統一するため、選考基準や栽培基準も設けています。

■ 「三重23号」の特徴

- ・ 高温下でも白未熟粒の発生が少なく、令和5年産でも約95%が1等米となりました。
- ・ 作付適期は4月下旬から5月上旬で、成熟期はコシヒカリより8日程度早くなります。
- ・ 粒が大きくもちりした‘あじわい米’です。べたつきが少なく冷めてもおいしいので炊き立てはもちろん、おむすびやお寿司、丼物にもおすすめです。



過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページで
ご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索